

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型拠点ラビリベース 保育所等訪問支援		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 23日	～	令和8年 3月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 3
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 23日	～	令和8年 3月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 3
○訪問先施設評価実施期間	年 月 日	～	年 月 日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	4	(回答数) 0
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	訪問支援で把握した園・学校での様子や課題を、児童発達支援・放課後等デイサービスの支援につなげることができています。	訪問支援後は報告書を速やかに作成し、ご家庭・園・学校・事業所内で情報共有を行っています。訪問先で見られた課題や配慮事項を、児童発達支援・放課後等デイサービスの支援内容に反映し、一貫した支援につなげています。	訪問先で把握した課題をもとに、児童発達支援では個別的な関わりや遊びを通じた支援、放課後等デイサービスではソーシャルスキルトレーニングや集団活動等を通じた支援を行い、お子様がそれぞれの発達段階に応じて適切な方法を学べるようにしていきます。
2	ご家庭・訪問先施設・事業所の三者で情報共有しながら、お子様に必要な支援を多面的に考えることができています。	訪問支援員だけでなく、必要に応じて他職員も状況を共有し、複数の視点でお子様様を捉えるようにしています。また、ご家庭からのご相談内容も踏まえ、訪問先施設と事業所の双方で支援の方向性を確認しています。	ご家庭・訪問先施設・事業所の情報共有の方法をさらに整理し、支援上の共通理解を深めることで、お子様にとってより分かりやすく一貫した支援につなげていきます。
3	訪問支援で得た気づきを、事業所全体の支援の質の向上につなげやすい体制があります。	訪問支援で確認した環境面や対人面の課題について、事業所内で共有し、活動設定や関わり方の見直しにつなげています。児童発達支援・放課後等デイサービスの双方で、日々の支援に活かせるよう意識しています。	訪問支援で得た情報を、支援会議や日々の振り返りの中でさらに活用し、児童発達支援・放課後等デイサービスそれぞれの特色を活かした支援の充実につなげていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員の質の向上につながる研修や、保育所等訪問支援に関する学びの機会が十分に整理・共有されていません。	研修情報の収集や周知が十分でないことに加え、勤務体制の都合上、研修の機会があっても参加が難しい場合があります。	事前に研修情報を把握しやすい体制を整え、職員間で共有するとともに、必要に応じて勤務調整を行い、参加しやすい環境づくりを進めています。
2	訪問支援に対応できる職員に限られており、継続的・安定的な訪問支援体制に課題があります。	訪問支援を担える職員が少なく、特定の職員に役割が偏りやすい状況があります。そのため、勤務状況によっては訪問支援の実施調整が必要になることがあります。	訪問支援に関する研修や実践経験を通して対応できる職員を増やし、複数職員で対応できる体制づくりを進めていきます。あわせて、必要に応じて人員配置の見直しも検討していきます。
3	訪問支援で得た情報を、事業所全体でより効果的に共有・活用する仕組みをさらに整える必要があります。	訪問支援の内容は共有しているものの、共有の方法や振り返りの機会が十分に定型化されておらず、支援への活かし方に差が出る可能性があります。	訪問支援後の報告や振り返りの方法を整理し、学校や園で得た情報を児童発達支援・放課後等デイサービスの双方で活かしやすい仕組みを整えていきます。

公表

保護者からの事業所評価の集計結果

事業所名 多機能型拠点ラボリベース 保育所等訪問支援

公表日 2026年3月 31日

利用児童数 4

回収数 3

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 訪問支援に使用する教具教材が整えられていますか。	1			2		訪問先やお子様の発達段階・特性に応じた教材を引き続き準備し、必要に応じて内容の見直しや充実を図ってまいります。
	2 プライバシーに配慮された面接室等が整えられていますか。	3					今後も個人情報や相談内容に十分配慮し、安心してご相談いただける環境づくりを継続してまいります。
	3 事業の目的が適切に説明されていると思いますか。	2	1				事業の目的や役割について、初回説明時だけでなく、必要に応じて継続的に分かりやすくお伝えしてまいります。
	4 保育所等訪問支援の頻度や時間について、相談の上決定されていますか。	3					今後もお子様の状況やご家庭、訪問先施設の状況を踏まえ、丁寧に相談しながら決定してまいります。
適切な 支援の 提供	5 こどもの状態に応じた支援が提供できる職員（職種や人数）体制だと思いますか。	2	1				お子様の状況に応じた支援が行えるよう、引き続き職員間で情報共有を行い、適切な支援体制の維持に努めてまいります。
	6 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	2		1			お子様の特性理解をより深めるとともに、専門性の向上に努め、より個別性の高い支援につなげてまいります。
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、保育所等訪問支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	2		1			保護者様のお考えやご希望も丁寧に伺いながら、お子様の状況を多面的に把握し、より分かりやすい計画作成に努めてまいります。
	8 保育所等訪問支援計画（個別支援計画）には、訪問先施設や担任等の意向が盛り込まれていると思いますか。	3					今後も訪問先施設との連携を大切に、現場の意向や課題を十分に踏まえた計画作成を行ってまいります。
	9 保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の提供すべき具体的内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	3					今後もガイドラインを踏まえつつ、お子様や訪問先施設の状況に応じた具体的で実践しやすい支援内容を設定してまいります。
	10 保育所等訪問支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	2			1		支援計画に基づいた支援を継続するとともに、実施内容について保護者様にもより分かりやすく共有できるよう努めてまいります。
	11 保育所等訪問支援を実施する際、訪問先施設に配慮した支援が行われていると思いますか。	3					今後も訪問先施設の運営や環境に配慮しながら、無理のない形で支援が行えるよう努めてまいります。
保護者 への 説	12 事業所を利用する際に、運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	3					今後も制度や費用に関する説明を丁寧に、不明点が残らないよう努めてまいります。
	13 「保育所等訪問支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	3					今後も計画を用いながら、支援の目的や内容がより伝わりやすい説明を心がけてまいります。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行なわれていますか。	2			1		家族支援や情報提供の機会について、実施方法や周知の仕方を見直し、必要な情報が届きやすい工夫してまいります。
	15 必要なときにこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができていると思いますか。	3					今後も必要な場面で丁寧に情報共有を行い、お子様の状況について共通理解を深められるよう努めてまいります。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	2		1			面談や助言の機会について、必要性に応じてより分かりやすくご案内し、相談しやすい体制づくりを進めてまいります。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	2				1	保護者様のお気持ちに丁寧に寄り添いながら、安心してご相談いただける関わりを今後も大切にしてまいります。

明 等	18	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	2		1			相談しやすい体制について改めて周知するとともに、ご相談やご要望に対して迅速かつ丁寧に対応できるよう努めてまいります。
	19	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	3					今後もご家庭の状況に応じた分かりやすい伝え方を意識し、円滑な情報共有に努めてまいります。
	20	事業所は、訪問先施設からの相談等に適切に応じ、必要な助言と支援が行われていると思いますか。	3					今後も訪問先施設との連携を大切にし、現場の困り感に応じた助言と支援を継続してまいります。
	21	保育所等訪問支援を実施した際に、訪問先施設と訪問支援の内容について話し合いが行われていると思いますか。	2	1				訪問後の振り返りや共有をより丁寧に行い、訪問先施設との共通理解を深めていけるよう努めてまいります。
	22	保育所等訪問支援を実施した際に、保護者に対して適切に共有がなされていると思いますか。	1	2				訪問支援後の内容や支援の意図について、保護者様へより分かりやすく、適時共有できるよう改善してまいります。
非 常 時 等 の 対 応	23	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	1	1		1		情報発信の頻度や方法を見直し、必要な情報を保護者様に分かりやすくお届けできるよう努めてまいります。
	24	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	2			1		今後も個人情報の取扱いについて職員間で確認を徹底し、安心してご利用いただけるよう努めてまいります。
	25	事業所では、緊急時の対応について訪問先施設と連携し、実践できるようにしていると思いますか。	3					緊急時対応について、訪問先施設との連携体制を継続するとともに、必要に応じて保護者様への説明も丁寧に行ってまいります。
満 足 度	26	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	2			1		安全確保に関する取り組みや考え方について、保護者様にも分かりやすくお伝えできるよう努めてまいります。
	27	子どもは訪問支援を嫌がっていませんか。	3					今後もお子様が安心して支援を受けられるよう、関わり方や支援方法を工夫してまいります。
	28	事業所の支援に満足していますか。	2		1			今後も保護者様や訪問先施設の声を大切にしながら、より安心・納得してご利用いただける支援を目指してまいります。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		多機能型拠点ラボリベース 保育所等訪問支援			公表日	2026年3月31日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと 思われる点など	課題や改善すべき点
環 境 ・ 制 運 営 ・ 体	1	訪問支援に使用する場合の教具教材は適切であるか。	3		・ 教具はあまり使用していないが、園や学校にとって有用なものがあれば紹介している。	訪問先やお子様の状況に応じて活用できる教具教材について、必要な情報収集と準備を進めていく。
	2	利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	3		・ 児発を利用している児童にはセンターの職員、放デイを利用している児童には放デイの職員が訪問支援員として訪問している。	利用児童の所属先に応じた職員配置を継続しつつ、支援内容や利用状況に応じて柔軟に対応できる体制づくりを行う。
業 務 改 善	3	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	3		・ 支援会議や職員会議で検討している。	支援会議や職員会議での検討内容を、より具体的な改善行動につなげられるよう整理していく。
	4	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3		・ 毎年行っている	保護者評価の結果を今後の運営や支援改善により明確に反映し、その内容を共有できるようにする。
	5	従業員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3		・ 定期的に面談を行っている	定期面談に加え、必要に応じて職員の意見を随時把握し、業務改善に生かせる体制を整える。
	6	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3		・ 令和6年に第三者評価があった	第三者評価の結果を継続的に確認し、改善が必要な点を日常の支援や運営に反映していく。
	7	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	2	1	・ 研修等の案内があれば、参加も可能かと思われる。もっとわかりやすく研修案内があれば良いと思う。 ・ 巡回相談専門員の研修を受け、そこでの知識が保育所等訪問支援に活かされると感じた。	研修案内の周知方法を見直し、職員が必要な研修に参加しやすい体制づくりを進める。
適 切 な 支 援 の 提 供	8	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	3		・ アセスメントを行った上で個別支援計画が作成されている。	アセスメント内容がより具体的に支援計画へ反映されるよう、情報収集と分析の質を高めていく。
	9	保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3		・ 支援会議を経て個別支援計画が作成されている。	支援会議での検討内容について、子どもの最善の利益の視点をより明確にしながら計画作成に生かしていく。
	10	保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	3		・ 担当者会議実施後に保育所等訪問支援を開始している。 ・ 園の意向を確認した上で実施している。	訪問先施設の意向や現場での課題をより丁寧に把握し、支援内容へ反映していく。
	11	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3		・ 共有されている。	計画内容の共有が継続的かつ確実に行われるよう、確認方法を整理していく。
	12	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3		・ 心理検査の結果なども確認している。	フォーマル・インフォーマル双方のアセスメントを活用し、子どもの状況を多面的に把握できるようにする。
	13	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の具体的な内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	3		・ ガイドラインを確認した上で設定されている。	ガイドラインに基づく支援内容となっているかを継続的に確認し、必要に応じて見直しを行う。
	14	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3		・ 計画に沿っている。	支援計画と実際の支援内容との整合性を継続して確認し、必要に応じて調整していく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3		・ 保育所等訪問支援の支援開始前というより放デイ、児発で各々に職員間の打ち合わせを行っている。	保育所等訪問支援としての事前打ち合わせのあり方を整理し、支援前の共有方法をより明確にしていく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3		・ 同上	支援後の振り返りについても、保育所等訪問支援としての共有方法や記録の残し方を整理していく。
17	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	3		・ 園や学校の活動を妨げないように注意している。	訪問先の理念や活動を尊重しながら、より円滑に支援できるよう事前確認や調整を丁寧にを行う。	

	18	毎回の支援に関して、記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善に繋げているか。	3		・記録や報告書を作成し、保護者様と訪問先に提出している。	記録や報告書を支援の検証・改善により生かせるよう、記録内容の整理と共有の工夫を進める。
	19	定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	3		・定期的に面談やモニタリングを行っている。	面談やモニタリングで把握した意向を、支援計画の見直しや支援内容の改善により的確に反映していく。
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3		・担当者会議には児発管と訪問支援員が参加している。	担当者会議等で得られた情報を職員間で十分に共有し、支援の質の向上につなげていく。
関係機関や保護者との連携	21	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3		・医療の方が担当者会議に入ったことはまだないが、園や行政の担当の方とやり取りすることは多い。	医療機関を含めた多機関連携が必要なケースでは、より円滑な情報共有の方法を整えていく。
	22	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3		・就学時の移行では、担当者が挨拶と情報共有を兼ねて電話をするようにしている。	就学時の移行支援について、電話連絡に加えて必要に応じた書面や会議での共有も検討していく。
	23	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等に助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	2	1	・外部研修も受けたい希望はあるが、人員が不足していることもあり、実際は難しい。 ・保育所等訪問支援についての研修には参加していないが、専門性を高めるための研修には参加できている。	人員体制を踏まえながら外部研修に参加しやすい方法を検討し、専門性向上の機会を確保していく。
	24	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	2	1	・機会があれば参加しても良いと思う。 ・坂戸市の児童支援部会で地域の保育所等訪問支援を行う事業者と情報交換の機会が設けられた。	地域の会議や部会への参加機会を把握し、必要に応じて継続的な参加につなげていく。
	25	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	3		・定期的に面談を行っている。	定期面談に加えて、日頃のやり取りの中でも保護者との共通理解を深められるよう努める。
	26	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	1	・家族とは研修等の情報提供は行っていないが、あれば情報を伝えることはできる。 ・児童発達支援センターでは、ペアレントトレーニングとペアレントプログラムを行った。放デイや保育所等訪問支援の職員が参加できる仕組みがあると良い。	家族支援プログラムや研修情報について、保育所等訪問支援としてどのように案内・活用できるかを検討していく。
保護者等への説明等	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3		・契約時に説明していると思う。 ・重要事項説明書に記載がある。	契約時の説明がより分かりやすく伝わるよう、説明方法や確認の機会を継続して工夫する。
	28	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	3		・訪問開始前に電話や会議の場にて説明している。	訪問先施設に対して事業の趣旨や目的がより明確に伝わるよう、開始前の説明を丁寧に行う。
	29	保育所等訪問支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	3		・面談で聞き取りを行っている	子どもや保護者の意向確認が十分に行えるよう、面談時の聞き取りや確認方法を継続して工夫する。
	30	「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	3		・計画書を示して説明している。	支援計画の内容について、保護者が理解しやすい説明となるよう伝え方を工夫していく。
	31	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	3		・定期的に面談を行っている。	保護者が相談しやすい体制を維持し、必要な助言や支援につながるよう継続して取り組む。
	32	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	3		・放デイ、児発ともに保護者会は行っている。その中で保育所等訪問支援についても説明している。	保護者会等の機会を通して、保育所等訪問支援利用者にも交流や情報共有の機会が伝わるよう工夫していく。
	33	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	3		・相談苦情窓口が重要事項説明書に記載されている。	相談・苦情対応の体制について、重要事項説明書だけでなく必要に応じて改めて周知していく。
	34	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	3		・放デイ、児発それぞれでおたよりを掲載している。	保育所等訪問支援利用者にも必要な情報が届きやすいよう、情報発信の方法を工夫していく。
	35	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	3		・している。	今後も個人情報の取扱いについて確認を継続し、適切な管理を徹底していく。
36	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	3		・わかりやすい形で伝達するよう努めている。	子どもや保護者の状況に応じた、より分かりやすい情報伝達の方法を継続して工夫していく。	

訪問先施設への説明等	37	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	3		・訪問先から問い合わせがあった場合には応えている。	訪問先からの相談に対して、より迅速かつ適切に対応できるよう相談対応の流れを整理していく。
	38	保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	3		・必ず行っているわけではない。数か月に1回、会議を行っている。	訪問後のカンファレンスの実施頻度や実施方法を見直し、継続的な共有の機会を増やしていく。
	39	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	3		・共有するようにしている。	家族への支援内容の共有について、内容や方法に差が出ないように整理していく。
	40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	3		・留意している。	訪問先施設とのやり取りにおいても、引き続き個人情報の取扱いに十分留意していく。
	41	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	3		・信頼関係を築くように綿密に連絡を取っている。	訪問先施設との信頼関係を継続的に深めるため、丁寧な連絡調整と相談対応を積み重ねていく。
非常時等の対応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3		・実施している。	各種マニュアルや訓練について、継続的に見直しを行い、実際の場面で活用できる体制を維持していく。
	43	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3		・行われている。	安全計画に基づく研修や訓練を継続し、安全管理の意識向上と実践につなげていく。
	44	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3		・保育所等訪問支援でのヒヤリハットはまだ少ない。	ヒヤリハット事例が少ない場合でも、潜在的なリスクに目を向け、予防的な視点で共有と検討を行っていく。
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	3		・研修が行われている。	虐待防止に関する研修を継続し、日々の支援の中で権利擁護の視点を確認していく。
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	3		・対象の児童はまだいないが、研修等は行われている。	該当児童がいなくても、身体拘束に関する考え方や手続きについて職員間で継続して確認していく。